

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成23年度第5回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成24年1月24日(火) 13:00~15:00

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、和田委員、前野委員、中西委員 (Skype)、本村委員 (Skype)

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 前回の委員会で情報リテラシー教育のガイドラインの到達目標の1. 4. についてはほぼ確定とし、今回は2. 3. について更新案を検討することにしてしたが、1から全体の見直しを行った。

2. 検討・修正内容について

(1) 【到達目標1】

- ・ 到達度1「情報の正確性・信頼性を選別・識別することの重要性を理解している。」に変更し、正確性を追加した。
- ・ 到達度3「社会の一員としての責任を理解して、情報を収集・表現・発信することができる。」に変更した。

(2) 【到達目標2】

- ・ 到達目標を、問題解決に情報通信技術を活用することできる。に変更し、さまざまな言葉を削除した。
- ・ 到達度1「課題や目的に応じて情報手段を適切に選択することができる。」に変更し、項目を2つに統合した。
- ・ 到達度2「必要に応じて収集した情報を整理・分析・表現することができる。」に変更し、項目を以下に合わせて変更した。①収集した情報をソフトウェアの特性に応じて整理させる。②問題解決の目的に応じて、統計・解析する技能を習得させ、結果について吟味させる。③結果を効果的に表現するためにソフトウェアを活用させる。
- ・ 到達度3「発信・伝達にあたって、相手の状況などを配慮することができる。」に変更し、受け手への表現を変更することで、②受け手の特性を踏まえて、発信・伝達のための表現方法を工夫する態度を体得させる。とした。

(3) 【到達目標3】

- ・ 到達度の3つを2つに統合して、1. 利用する情報通信技術の特性を理解し、コミュニケーションにとって適切な技術を選択できる。2. 情報通信技術に応じて安全に配慮し、誠実に情報発信ができる。に変更した。
- ・ 到達度の変更及び用語の統一を行い、到達度1の【教育・学習方法の例示】は、①代表的な情報通信技術を取り上げ、メッセージの到達範囲、即時性・同時性の度合い、秘匿性の度合いについてまとめさせる。②それぞれの情報通信技術の特性に応じて、やりとりされるメッセージの信憑性の程度や、それを判断するための方法について議論させる。③いくつかの目的を示して、どのような情報通信技術を選択するのが適切か、グループ討議などを通して検討させ、それぞれのリスクについてまとめさせる。その際、可能な範囲で具体例を提示させる。とした。
- ・ 到達度の変更及び用語の統一を行い、到達度2の【教育・学習方法の例示】は、①よく使われている

情報通信技術をとりあげ、サービスの過程で生じうる問題について指摘させる。② 誠実な発言の積み重ねが、信頼関係の構築に重要であることを理解させる。とした。

(4) 【到達目標 4】

- ・ 到達度 2 の【教育・学習方法の例示】③情報システムの具体例を挙げて、その仕組みと社会における役割・影響を説明させる。とし、日常という表現を社会に変更した。

(5) その他の意見

- ・ 到達目標 3 を到達目標 1 に含めても良いのではないかの意見があった。
- ・ 到達目標 2 は技術面中心ではどうかの意見があった。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は 2 月 27 日（月）14 時から実施を予定。
- ・ 今回の議論を踏まえて整理したものを再度検討することとした。

以上